

整備機器

新商品

小野谷機工(株)

乗用車用タイヤチェンジャー 「エクシード イオタX /イオタS」

スタンダードモデル新登場

「イオタX」はレバーレス装置付き、「イオタS」はレバーレス装置を搭載しない点が最も大きく異なる点だという。

「イオタX/S」は、適用リム径12〜26インチ(12〜24インチ、または14〜26インチ)、適用リム幅3.5〜14インチ、最大タイヤ径100ミリ×幅380ミリ。

左側サポートには「イオタ」シリーズで共通する、剛性の高い100ミリ×幅380ミリの「イオタ」シリーズ左側サポートには、ビットクルーが日ごろの作業で慣れ親しむヨーロッパ製傾倒させた支柱をスタンドさせ、タイヤをチャッキングする。左側サポートのホイール

「イオタX」はレバーレス装置付き、「イオタS」はレバーレス装置を搭載しない点が最も大きく異なる点だという。

「イオタX/S」は、適用リム径12〜26インチ(12〜24インチ、または14〜26インチ)、適用リム幅3.5〜14インチ、最大タイヤ径100ミリ×幅380ミリの「イオタ」シリーズ左側サポートには、ビットクルーが日ごろの作業で慣れ親しむヨーロッパ製傾倒させた支柱をスタンドさせ、タイヤをチャッキングする。左側サポートのホイール

「イオタX」はレバーレス装置付き、「イオタS」はレバーレス装置を搭載しない点が最も大きく異なる点だという。

「イオタX/S」は、適用リム径12〜26インチ(12〜24インチ、または14〜26インチ)、適用リム幅3.5〜14インチ、最大タイヤ径100ミリ×幅380ミリの「イオタ」シリーズ左側サポートには、ビットクルーが日ごろの作業で慣れ親しむヨーロッパ製傾倒させた支柱をスタンドさせ、タイヤをチャッキングする。左側サポートのホイール

むずかしい作業もすばやく確実に

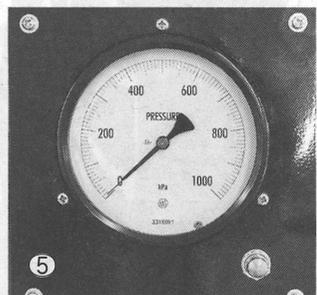
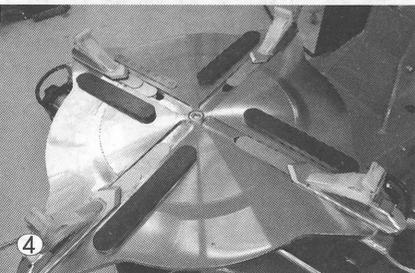
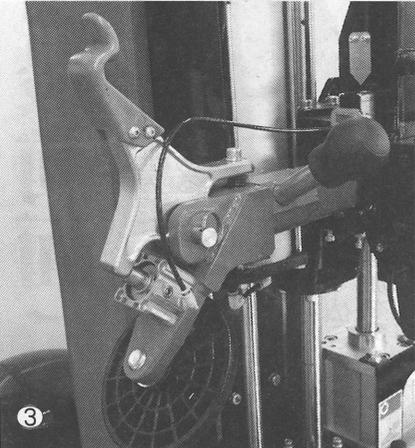
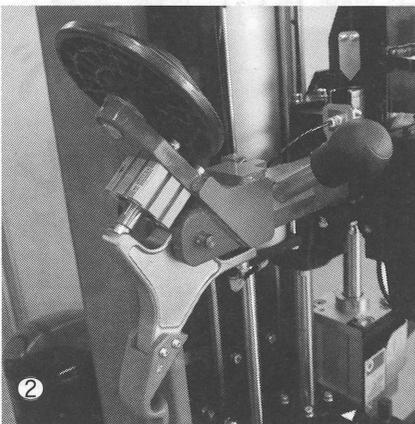
軽労化・省力化と作業性の向上をどのようにして両立を図るか——。人手不足やスタッフの高齢化はタイヤ整備の現場が抱える切実なテーマだ。その喫緊の課題に真正面から取り組み、製品で解決策の具現化を図る小野谷機工。乗用車用タイヤチェンジャー「EXCEED(エクシード)」シリーズの第9世代モデル、「エクシード イオタ(イオタ)」を開発し市場で展開している。同シリーズに新機種をラインアップした。今回、その解説と実演デモを商品開発本部サービス機器開発部の竹内優作さんが担当してくれた。

「エクシード イオタ」シリーズは、小野谷機工の乗用車用タイヤチェンジャーでフラッグシップブランドと位置付けられる。そのなかで、上級モデルとなるのがレバーレス作業対応の「エクシード イオタ」、最上級モデルはセミオートでレバーレス作業を実現する「エクシード イオタPro(プロ)」。そこに今回、「エクシード イオタX」と「エクシード イオタS」を追加した。

マウントプレス装置とホイールプレス装置を搭載した。一方、右側サポートは「イオタX」と「イオタS」とで少し変わる。レバーレス作業対応の「イオタX」には、DTヘッドとBプロローを手动で反転することが可能なデュアルツールを採用

「アオタX/S」は自動エア充填機をオートに用意することで、使いかたやタイヤ交換作業で重視するポイントに配慮して、さまざまにカスタマイズすることが可能です」と、竹内さんは話す。

現場でのニーズにミートし作業効率を高めるとともに、製品ラインの拡充により「自分」に合った一台を導入しやすくなった。



(写真上から)①本機と竹内さん、デュアルツールの②Bプロローと③DTヘッド、④新形状チャック爪とホイール受けプロテクターを配置したターンテーブル、⑤ダイヤルゲージタイプのエアメーター、⑥タイヤ組み付け作業)